

自動計測の概要

概要

- センシング技術、通信インフラの発達により、自動計測が可能に
- 機器毎に観測結果をデータとして集約しデータ表示・記録・蓄積する
- 連続性、即時性あり
- 観測を省力化できるが、初期コストが高くなる
- 即時的なグラフ化、解析作業が可能
- 観測範囲が広い場合、リアルタイム観測が必要な場合、保全対象の重要度が高い場合に適する

主なセンサー

- 雨量計、地表面伸縮計、地盤傾斜計、パイプひずみ計、孔内傾斜計、多層移動量計、地下水位計、間隙水圧計など

『改訂版 現場技術者のための地質調査技術マニュアル』を参考に作成

自動計測のトラブル防止上の留意事項

計測現場の自然環境、人的環境条件から、あらかじめ予想されるトラブルを抽出する

トラブルに対応可能な機器の性能や設置方法を検討し、計画に盛り込む

運用開始後は、定期的なメンテナンスを実施

主なトラブルには、機器破損、現地ブレーカの遮断、通信回線の輻輳、動物・人によるいたずらなど